

女子大生とその家族のジェンダーバイアス

—1999・2004・2005—

第Ⅲ報 生活文化としての夫婦関係編

百瀬 靖子

A Survey of "Gender Bias" in the
Lives of Female University Students
and their Families in Japan

Yasuko MOMOSE

1. はじめに

1996年7月の「男女共同参画ビジョン—21世紀の新たな価値の創造—」答申から既に10年が経過している。また、1999年6月に男女共同参画社会基本法が制定され、それを契機に男女共同参画社会の形成促進は国政はじめ各自治体においても重要な政策目標として位置づけられるようになった。昨今ではほとんどの地方都市の庁舎前などには「男女共同参画社会宣言都市」の大きな看板が目立つ。その間、推進されてきた主な政策・施策としては、国および地方公務員はじめ、大学等高等教育・研究機関および各種公的機関への女性の採用・登用・職域の拡大等の推進であり、それなりの効果も徐々に現れつつある。また、民間企業においても女性の役員・管理職等への登用が徐々にではあるが進展しているようである。

加えて少子高齢化対策としての保育施設の設置や産休・育休・介護休業の延長などの施策も不十分ながら改善しており、適齢期の女性が社会参加をしながら安心して結婚・出産・養育が出来る環境の整備も進みつつある。

これらいわば公的な施策は社会の活性化にも一役かっているし、なにより社会は男性と女性という両性の人間同士の協力で成り立っているという認識を深めることになるが、はたして家族間・夫婦間・親子間には其の意識がどの程度浸透しているのだろうか。

かつてわが国では明治維新以来長年に渉って家制度や家父長制が敷かれてきた。それらは1945年以降の民主化の過程で廃止され、制度上は男女同権が認められたが、1960年代以降の高度経済成長期には女性の高学歴化が進んだ一方で、「夫は外で働き妻は家で家事と育児」という所謂“家庭内分業”の時代が続いてきた。その結果90年代以降の安定した社会を迎え男女共同参画の必要性が叫ばれるようになって、なかなか女性の社会的進出とか家庭内での女性の

地位向上などの意識の変化が進みにくい状況が続いてきた。

しかし2000年以降はの男女共同参画社会基本法のもと社会制度面では政治主導とも言うべきジェンダーフリーの流れが速くなりつつあることは先に述べたとおりである。

筆者はこうした状況の下で、女子大生とその家族を対象として人々の地域や家庭・夫婦・親子間の生活の場面におけるジェンダーをめぐる意識や行動の状況について若干の調査をした。

これまでに、第1報として「女子大生とその家族のジェンダーバイアス 年中行事編」¹⁾にて2000年～2004年の5年間の女子大生とその家族の「生活行事」に関する意識・感情・行動の各側面を歳時記風にまとめたものを報告した。そこでは、学生や家族のジェンダー認識は「意識」の面で高く、「感情」と「行動」面ではこれから、という結果であった。

第Ⅱ報では、「家庭文化としての生活場面編」の報告²⁾をまとめた。結果は、2005年でも「資産」の面で男性が優位であり、「家事」の細部にいたってははまだジェンダーフリーにほど遠く、ジェンダーバイアスが著しいことがわかった。それらを踏まえて、本第Ⅲ報では、夫婦編として夫―妻の「力のバランス」、および「家事と育児の協力関係」について若干の知見をえたので報告いたします。

2. 研究目的

本研究の目的は、学生の父母である夫―妻の夫婦関係について、ジェンダーフリーに的を絞って夫婦の権威構造と実生活における夫婦の協力状況を考察することである。

家族関係学において権威とは家族員の誰かが持つことを当然のこととして公認されている勢力であり、他人に潜在的に影響をあたえ、実際には、各種の決定能力としての権力を内容とするのであるが、それらをかんがみながら今日的な内容である〔Ⅰ〕妻と夫の力のバランス、および〔Ⅱ〕夫と妻の家事と育児の協力関係の2点について調べた。

前報同様、ジェンダーフリーからエンパワーメントへの橋渡しとして、21世紀をはたつと生きていく学生の指針ともなり、合わせて教材研究に資することを目的とするものであるが、生活文化や家庭・家族文化の伝承につながることを希望するものである。

3. 研究方法

本報告は〈(財)東京女性財団によるジェンダーチェックワークシート〉ジェンダーチェックシート【その2】③夫婦・親子編のうち夫婦編】について1999年～2005年の家族関係学ならびに家政学原論の受講生を通じて両親に記述してもらった調査票のうち主として直近の2年間、2004年・2005年について1999年と比較をすると共に、最新の2005年についてさらに詳しく分析を試みたものである。

【調査票の特徴】

ジェンダーチェックシートは「夫と妻の力のバランス」と「夫婦間の家事と育児の協力関係」の2側面からなり、前者はA、B、C3分野に各5項目ずつ、後者も同様にD、E、F3分野に

各5項目ずつあり、合計30問について「はい」「いいえ」で答えるようになっている。評点は各分野ごとの質問の仕方に応じてA、BおよびD、Eの分野については「いいえ」数を、C、Fの分野については、「はい」の数を合計して得点（指数）を算出し、A、B、C 3分野の指数の合計を「バランス指数」、D、E、F 3分野の指数の合計を「協力指数」と言い、カップルの評価は総得点（両指数の合計）で以って判定する。

総得点の評価は東京都女性財団による評価に従い3段階に区分し、総得点が高いほどジェンダーフリー（夫婦平等）に近い夫婦、逆に得点が低くなるにしたがってジェンダーフリーから遠い傾向にあるジェンダーバイアスカップルと評価する。

〈評価区分（東京都女性財団による）〉

第1段階は25点～30点のカップルで〈クロスオーバー・カップル〉といい、性別役割を解消して、対等な気持ちのよい関係で暮らしている夫婦である。快適な生活を周囲の人々に広げて刺激して啓蒙していくことを期待されているカップルである。

第2段階は11点～24点に属するカップルで〈要・規制緩和カップル〉といい、たとえ対等な仲の良いカップルでも、妻が夫の家事や育児への参加を規制していたり、夫の参加の不足なことが多くあり、今後夫の家事・育児への参加を夫婦でどんどん推進していく必要があるカップルである。

第3段階は0点～10点に属するカップルで〈くすぶりカップル〉といい、パートナー関係に平等の意識が乏しく、夫婦協力の実績も少ない夫婦間で危険信号が灯っているジェンダーバイアスが最も著しいカップルである。互いにパートナーのどこをどのように変えたいのか、具体的に話し合うことが必要なカップルである。

4. 結果および考察

調査対象者は東京家政大学、家族関係学受講生の父母で、その年齢は50歳代をピークに40歳代と60歳代が若干存する。したがって1950年代の生まれのいわゆる団塊世代の終盤からやや若い世代の両親を中心としたカップルである。なお、受講生の年齢は18歳から20歳である。

調査票は回収したものをスクリーニングし、2004年203名・2005年122名と1999年93名について集計した。また前回同様、学生にはジェンダーチェック評価や課題、今後の発展、反省などを自由記述にて評価や感想文の提出を受けたので参考になると思われるものを記載した。

本夫婦編の調査票から集計した結果は表1のとおりである。表2以下では分析の目的にしたがって分野別項目別比率（表2）、年度別平均総合評価指数（表3-1）、総合評価区分別人数構成・比率（表3-2）、分野別項目別平均点（表4）、2005年総合評価ランク別・人員・分野別・項目別平均点（表5）を作成した。

(1)ジェンダーチェックシート夫婦編の集計

年度別（1999年 2004年 2005年）に回答結果をA～Fの6分野30項目ごとに「はい」「いいえ」「無回答」別に集計した。なお、第1表作成に際しては、作表結果を見やすく理解しやす

くするため、分野ごとに「はい」「いいえ」のどちらにジェンダーフリーに近いとした得点が付くかによって左右並べ替えて表示した。すなわち、分野A・B・D・Eについては「いいえ」に、分野C・Fについては「はい」に得点がつくのでいずれも左側「得点あり」の列に計上し集計した。

(2) 夫婦編分野別項目別比率の分析と比較

本調査票の目的は総合指数による評価であるが、その前に表2により項目別にジェンダーフリーの進捗状況を考察してみた。(表2はA～Fの6分野30項目について項目ごとに「はい」「いいえ」「無回答」の構成比をパーセンテージ(%)で示したもの)

1) ジェンダーフリー化型

表2で直近の2年間(04年・05年)について得点ありの列の数字が90%以上をジェンダーフリーな項目とした。

結果、表2によるとA分野の「妻は夫に対し敬語を使う」「妻が反対意見を言うと“女のくせに口答えするな”と言う」「夫は気に入らないことがあると妻を殴る」「いつも妻は聞き手、夫が話し手である」、B分野の「夫が弱音を吐くと妻は“男のくせにだらしがない”と言う」、E分野では「妻は、夫の育児についてけちばかりつける」と6項目でジェンダーフリー化しているといえる。その内「妻が反対意見を言うと“女のくせに口答えするな”と言う」「夫は気に入らないことがあると妻を殴る」「いつも妻は聞き手、夫が話し手である」「妻は、夫の育児についてけちばかりつける」の4項目は5年前の1999年からジェンダーフリー化していたが、他の2項目は5年間のうちに改善したものである。いわゆる対象者は互いに意見を言い合っているし、殴ったり、殴られることは無いとしている。なお、80%台で若干問題はありとしながらも、A分野の「夫は、“釣った魚”(妻のこと)にえさはやらない主義である」、B分野の「家計はすべて妻が握り、夫の自由にはさせない」「いつも夫は聞き手、妻が話してである」E分野の「妻は、夫の家事に文句を言うだけでほめたり、感謝したりしない」「妻は、台所は女の城だと思っている」の5項目もジェンダーフリー化に接近していると見れば、あわせて30項目中11項目(36.7%)がジェンダーフリー化していると見られる。相対的に見て、「妻と夫の力のバランス」領域にある項目が多く、オーソリティーやパワーといわれる「権威の側面」でジェンダーフリーに近づいているように思われる。しかしながら団塊の世代以降生まれのカップルということで、男女平等はかなり浸透していることを期待したが、まだ十分とはいえないようである(4割に満たない)。

2) ジェンダーフリー化とジェンダーバイアスの中間型

ここでは、ジェンダーフリー化中間型として60%以上の項目を挙げる。「権威の側面」B分野の「家計はすべて妻が握り、夫の自由にはさせない」C分野の「一緒にいるとお互いに楽しい」、「家事・育児の協力関係の側面」のD分野「夫は家では指図や文句を言うだけで家事を何もしない」「子育ては主に妻の役目だと考え、夫はほとんど手も口も出さない」「食事の支度

女子大生とその家族のジェンダーバイアス

表1 夫婦編分野別項目別回答集計表

	1999年(93名)				2004年(203名)				2005年(122名)				
	得点あり いいえ	得点なし はい	得点なし 無回答	合計	得点あり いいえ	得点なし はい	得点なし 無回答	合計	得点あり いいえ	得点なし はい	得点なし 無回答	合計	
I 妻と夫の力のバランスは？	A 夫上位の夫婦関係か？												
	夫は「釣った魚(妻のこと)に餌はやらない」主義である。	78	15	0	93	188	14	1	203	103	19	0	122
	妻は夫に対して敬語を使う(夫が妻に対して敬語を使うことは無い)	80	13	0	93	192	11	0	203	115	7	0	122
	妻が反対意見を言うと「女のくせに口ごたえするな」と言う	88	5	0	93	195	8	0	203	114	8	0	122
	夫は気に入らないことがあると妻を殴る。	87	6	0	93	197	6	0	203	118	4	0	122
	いつも妻は聞き手、夫が話し手である。	87	6	0	93	183	20	0	203	115	7	0	122
	平均	84	9	0	93	191	12	0	203	113	9	0	122
	B 妻上位の夫婦関係か？												
	妻の本音は「亭主従者で留守がいい」だ。	53	40	0	93	131	70	2	203	71	51	0	122
	夫が弱音を吐くと妻は「男のくせにだらしがない」と言う。	83	10	0	93	189	14	0	203	110	12	0	122
	家計はすべて妻が握り、夫の自由にはさせない。	71	22	0	93	160	42	1	203	99	23	0	122
	妻は、家の中のことはすべて自分の思い通りにしている。	66	27	0	93	170	32	1	203	90	32	0	122
	いつも夫は聞き手、妻が話し手である。	47	46	0	93	167	36	0	203	98	24	0	122
	平均	64	29	0	93	163	39	1	203	94	28	0	122
	C 平等の夫婦関係か？												
	一緒にいるとお互いに楽しい。	68	25	0	93	143	55	5	203	88	34	0	122
夫婦のどちらかが欠けてもそれぞれ独りで何とか生きていける	49	44	0	93	119	82	2	203	67	55	0	122	
意見が合わないときは両方が納得するまで話し合う。	57	36	0	93	115	84	4	203	56	66	0	122	
資産(貯金や家や保険など)の名義は夫婦で半々である。	32	60	1	93	98	91	14	203	51	70	1	122	
妻と夫は、お互いに名前や愛称で呼び合っている。	25	68	0	93	88	113	2	203	46	76	0	122	
平均	46	47	0	93	113	85	5	203	62	60	0	122	
II 夫婦間の家事と育児の協力関係は？	D 夫が家事・育児に不参加か？												
	夫は、家では指図や文句を言うだけで家事を何もしない。	71	22	0	93	138	64	1	203	91	31	0	122
	子育てはおもに妻の役目だと考え、夫はほとんど手も口も出さない	73	20	0	93	157	44	2	203	92	30	0	122
	夫は、料理らしい料理をほとんどつけない。	56	37	0	93	135	66	2	203	65	57	0	122
	食事の用意がしていないと、夫はひどく機嫌が悪くなる。	68	25	0	93	151	50	2	203	88	34	0	122
	夫は、妻の家事や育児を感謝したりほめたりしない。	58	35	0	93	104	97	2	203	68	54	0	122
	平均	65	28	0	93	137	64	2	203	81	41	0	122
	E 妻が夫の家事・育児参加を規制していないか												
	妻は、家事すべてをとりしきり、夫に口をはさませない。	81	12	0	93	180	22	1	203	95	27	0	122
	妻は、夫の育児についてけちばかりつける。	87	6	0	93	188	14	1	203	114	8	0	122
	妻は、夫を「手のかかる子ども」のように扱う。	73	20	0	93	139	63	1	203	80	42	0	122
	妻は、台所は女の城だと思っている。	78	15	0	93	172	28	3	203	100	22	0	122
	妻は、夫の家事に文句を言うだけでほめたり、感謝したりしない	77	16	0	93	171	30	2	203	101	21	0	122
	平均	79	14	0	93	170	31	2	203	98	24	0	122
	F 家事・育児に夫婦協力しているか？												
	日用品の買い物は夫も妻も同じようにしている。	48	45	0	93	108	93	2	203	45	77	0	122
妻は夫に家事を任せて家をあけることができる。	64	29	0	93	119	82	2	203	71	51	0	122	
夫の料理で客をもてなすことができる。	24	69	0	93	67	135	1	203	21	101	0	122	
夫も妻も子どもの友達や担任の教師の名を知っている。	36	57	0	93	88	112	3	203	51	71	0	122	
子育ての方針は両方で話し合っている。	70	23	0	93	138	61	4	203	85	37	0	122	
平均	48	45	0	93	104	97	2	203	55	67	0	122	

(注) 分野ごとの質問の仕方によって「はい」「いいえ」の意味が異なるので、A・B・D・E分野では「いいえ」がC・F分野では「はい」がジェンダーフリー化しているとして左の列に計上し得点をカウントする。

がしてないと、夫はひどく機嫌が悪くなる」、E分野「妻は、家事すべてをとりしきり、夫に口をはさませない」「妻は、夫を“手のかかる子ども”のように扱う」、「子育ての方針は両方で話し合って決める」と「権威の側面」は3項目、「協力関係の側面」は5項目である。従って、ここでは妻と夫の力のバランスよりむしろ家事や育児の場面でジェンダーフリー化に近づきつつあるといえるのではないだろうか。

3) ジェンダーフリーバイアス化型

こちらでは、パーセンテージ60%未満をジェンダーフリー化にかなり遠い存在の項目として列挙してみた。「権威の側面」はB分野の「妻の本音は“亭主達者で留守がいい”だ」、C分野の「夫婦のどちらかが欠けてもそれぞれ一人で何とか生きていける」「意見が合わないときは両方が納得するまで話し合う」「資産（貯金や家や保険など）の名義は夫婦で半々である」、「妻と夫はお互いに名前や愛称で呼び合っている」「協力関係の側面」では、D分野の「夫は、料理らしい料理をほとんど作れない」「夫は、妻の家事や育児を感謝したりほめたりしない」、F分野の「日用品の買い物は夫も妻も同じようにしている」「妻は夫に家事を任せて家を空けることができる」「夫の料理で客をもてなすことができる」「夫も妻も子どもの友達や担任の教師の名を知っている」の11項目である。「権威の側面」で5項目、「協力関係の側面」で6項目見られ、夫婦関係のすべてに亘って散見できると言える。このうち「意見が合わないときは両方が納得するまで話し合う」「資産（貯金や家や保険など）の名義は夫婦で半々である」、は日本人が「議論を好まず阿吽の呼吸をよしとする」習性が大きく影響していると思われるが、欧米に習って改善しなければならない重要項目であろう。また、「夫は、料理らしい料理をほとんど作れない」「夫の料理で客をもてなすことができる」も決して夫が料理をしたがらないわけではないと思われるので、妻が導入をしてやるなど改善方法はいくらでもあるかと思われる。しかし実際のジェンダーフリー化はなかなか難しいといえようか。

(3)夫婦編年度別総合評価指数と評価区分別人数構成比の考察

表3-1で総合評価指数の推移は1999年の20.83から2004年は21.62へと若干上昇したが2005年は20.56へと反落・悪化している。内容的にはバランス指数は改善したが、協力指数が悪化している。しかし、変化は誤差の範囲内ともいえるほどごく僅かである。一方、評価区分別の比率を見ると顕著な変化が見られる。即ち1999年以降2004年、2005年において、「くすぶりカップル」には特段の変化はないが「要・規制緩和カップル」から「クロスオーバー・カップル」へと約6～7ポイント移動しているのが見られる。

2000年代に入って「要・規制緩和カップル」のところで両極への分解が起こったものであろうかと思われる。

(4)夫婦編分野別項目別平均点の分析と考察

表4では各項目の平均点（表1の「得点あり」の列の数を各年の対象人数で除したもの）を示すとともに5段階評価区分で色分けした。5段階評価区分とは東京都女性財団の評価区分を基に、その中間部分である「要・規制緩和カップル」をさらに3区分して、全部で5段階に分

女子大生とその家族のジェンダーバイアス

表2 夫婦編分野別項目別比率

単位 %

	1999年実施 93名				2004年実施 203名				2005年実施 122名			
	得点あり いいえ	得点なし はい	得点なし 無回答	合計	得点あり いいえ	得点なし はい	得点なし 無回答	合計	得点あり いいえ	得点なし はい	得点なし 無回答	合計
妻と夫の力のバランスは？	A 夫上位の夫婦関係か？											
	夫は「釣った魚（妻のこと）に餌はやらない」主義である。											
	84.2	15.8	0.0	100.0	92.6	6.9	0.5	100.0	84.4	15.6	0.0	100.0
	妻は夫に対して敬語を使う（夫が妻に対して敬語を使うことは無い）											
	86.3	13.7	0.0	100.0	94.6	5.4	0.0	100.0	94.3	5.7	0.0	100.0
	妻が反対意見を言うとき「女のくせに口ごたえするな」と言う											
	94.7	5.3	0.0	100.0	96.1	3.9	0.0	100.0	93.4	6.6	0.0	100.0
	夫は気に入らないことがあると妻を殴る。											
	93.7	6.3	0.0	100.0	97.0	3.0	0.0	100.0	96.7	3.3	0.0	100.0
	いつも妻は聞き手、夫が話し手である。											
93.7	6.3	0.0	100.0	90.1	9.9	0.0	100.0	94.3	5.7	0.0	100.0	
平均												
90.5	9.5	0.0	100.0	94.1	5.8	0.1	100.0	92.6	7.4	0.0	100.0	
B 妻上位の夫婦関係か？												
妻の本音は「亭主達者で留守がいい」だ。												
56.8	43.2	0.0	100.0	64.5	34.5	1.0	100.0	58.2	41.8	0.0	100.0	
夫が弱音を吐くと妻は「男のくせにだらしない」と言う。												
89.5	10.5	0.0	100.0	93.1	6.9	0.0	100.0	90.2	9.8	0.0	100.0	
家計はすべて妻が握り、夫の自由にはさせない。												
76.8	23.2	0.0	100.0	78.8	20.7	0.5	100.0	81.1	18.9	0.0	100.0	
妻は、家の中のことはすべて自分の思い通りにしている。												
70.5	29.5	0.0	100.0	83.7	15.8	0.5	100.0	73.8	26.2	0.0	100.0	
いつも夫は聞き手、妻が話し手である。												
50.5	49.5	0.0	100.0	82.3	17.7	0.0	100.0	80.3	19.7	0.0	100.0	
平均												
68.8	31.2	0.0	100.0	80.5	19.1	0.4	100.0	76.7	23.3	0.0	100.0	
C 平等の夫婦関係か？												
一緒にいるとお互いに楽しい。												
72.6	27.4	0.0	100.0	70.4	27.1	2.5	100.0	72.1	27.9	0.0	100.0	
夫婦のどちらかが欠けてもそれぞれ独りで何とか生きていける												
52.6	47.4	0.0	100.0	58.6	40.4	1.0	100.0	54.9	45.1	0.0	100.0	
意見が合わないときは両方が納得するまで話し合う。												
61.1	38.9	0.0	100.0	56.7	41.4	2.0	100.0	45.9	54.1	0.0	100.0	
資産（貯金や家や保険など）の名義は夫婦で半々である。												
34.7	64.2	1.1	100.0	48.3	44.8	6.9	100.0	41.8	57.4	0.8	100.0	
妻と夫は、お互いに名前や愛称で呼び合っている。												
27.4	72.6	0.0	100.0	43.3	55.7	1.0	100.0	37.7	62.3	0.0	100.0	
平均												
49.7	50.1	0.2	100.0	55.5	41.9	2.7	100.0	50.5	49.4	0.2	100.0	
家事と育児の協力関係は？	D 夫が家事・育児に不参加か？											
	夫は、家では指図や文句を言うだけで家事を何もしない。											
	76.8	23.2	0.0	100.0	68.0	31.5	0.5	100.0	74.6	25.4	0.0	100.0
	子育てはおもに妻の役目だと考え、夫はほとんど手も口も出さない											
	78.9	21.1	0.0	100.0	77.3	21.7	1.0	100.0	75.4	24.6	0.0	100.0
	夫は、料理らしい料理をほとんどつけない。											
	60.0	40.0	0.0	100.0	66.5	32.5	1.0	100.0	53.3	46.7	0.0	100.0
	食事の用意がしていないと、夫はひどく機嫌が悪くなる。											
	72.6	27.4	0.0	100.0	74.4	24.6	1.0	100.0	72.1	27.9	0.0	100.0
	夫は、妻の家事や育児を感謝したりほめたりしない。											
62.1	37.9	0.0	100.0	51.2	47.8	1.0	100.0	55.7	44.3	0.0	100.0	
平均												
29.9	70.1	0.0	100.0	31.6	67.5	0.9	100.0	33.8	66.2	0.0	100.0	
E 妻が夫の家事・育児参加を規制していないか？												
妻は、家事すべてをとりしきり、夫に口をはさませない。												
87.4	12.6	0.0	100.0	88.7	10.8	0.5	100.0	77.9	22.1	0.0	100.0	
妻は、夫の育児についてけちばかりつける。												
93.7	6.3	0.0	100.0	92.6	6.9	0.5	100.0	93.4	6.6	0.0	100.0	
妻は、夫を「手のかかる子ども」のように扱う。												
78.9	21.1	0.0	100.0	68.5	31.0	0.5	100.0	65.6	34.4	0.0	100.0	
妻は、台所は女の城だと思っている。												
84.2	15.8	0.0	100.0	84.7	13.8	1.5	100.0	82.0	18.0	0.0	100.0	
妻は、夫の家事に文句を言うだけでほめたり、感謝したりしない												
83.2	16.8	0.0	100.0	84.2	14.8	1.0	100.0	82.8	17.2	0.0	100.0	
平均												
85.5	14.5	0.0	100.0	83.7	15.5	0.8	100.0	80.3	19.7	0.0	100.0	
F 家事・育児に夫婦協力し合っているか？												
日用品の買い物は夫も妻も同じようにしている。												
51.6	48.4	0.0	100.0	53.2	45.8	1.0	100.0	36.9	63.1	0.0	100.0	
妻は夫に家事を任せて家をあけることができる。												
68.4	31.6	0.0	100.0	58.6	40.4	1.0	100.0	58.2	41.8	0.0	100.0	
夫の料理で客をもてなすことができる。												
25.3	74.7	0.0	100.0	33.0	66.5	0.5	100.0	17.2	82.8	0.0	100.0	
夫も妻も子どもの友達や担任の教師の名を知っている。												
38.9	61.1	0.0	100.0	43.3	55.2	1.5	100.0	41.8	58.2	0.0	100.0	
子育ての方針は両方で話し合っている。												
75.8	24.2	0.0	100.0	68.0	30.0	2.0	100.0	69.7	30.3	0.0	100.0	
平均												
52.0	48.0	0.0	100.0	51.2	47.6	1.2	100.0	44.8	55.2	0.0	100.0	

(注) 分野ごとに質問の仕方によって「はい」「いいえ」の意味が異なるので、A・B・D・E分野は「いいえ」がジェンダーフリー化しているとして得点となり、C・F分野は「はい」がジェンダーフリー化しているとして得点となる。

表 3-1 夫婦編年度別平均総合評価指数

	1999年	2004年	2005年
バランス指数 (15点満点)	10.45	11.50	10.99
協力指数 (15点満点)	10.38	10.12	9.57
総合指数 (30点満点)	20.83	21.62	20.56

表 3-2 総合評価区分別人数構成・比率

		1999年		2004年		2005年	
		人数	%	人数	%	人数	%
10点以下	くすぶりカップル	3	3.2	7	3.4	4	3.3
11点～24点	要・規制緩和カップル	72	77.4	143	70.4	85	69.7
25点～30点	クロスオーバー・カップル	18	19.4	53	26.2	33	27.0
合計人数		93	100.0	203	100.0	122	100.0

解・分析を試みたもので区分の基準は次のとおりである。

〈5段階評価基準〉

第1ランク (白) 0.83点以上の項目で「総合評価のクロスオーバー・カップル」要件を満たし、夫婦平等・ジェンダーフリーの関係が築かれている項目と見られる項目 (分野レベルでは4.17点以上が第1ランク) (注) 総合評価では30点満点の25点以上を「クロスオーバー・カップル」に区分するが、総合評価の30点満点中の25点を項目レベルに引きなおすと、1点満点中の0.83点に相当すると考える。以下同様の考え方により、総合評価レベルの20点、15点、10点を分岐点として5区分した場合のそれぞれに相当する項目レベルの分岐点を決めたもの。

第2ランク (薄灰色) 0.83点未満・0.67点以上で総合評価区分の「要・規制緩和カップル」の要件を満たす中でもジェンダーフリーに最も近づいていると見られる項目 (分野レベルでは4.17点未満・3.33点以上が第2ランク)

第3ランク (灰色) 0.67点未満・0.50点以上で総合評価区分の「要・規制緩和カップル」の中に属し、上にも下にも行きかねない項目 (分野レベルでは3.33点未満・2.50点以上が第3ランク)

第4ランク (やや濃い灰色) 0.5点以下・0.33点を超える総合評価区分の「要・規制緩和カップル」の要件を満たしながらも、きわめて「くすぶりカップル」に近いと見られる項目、(分野レベルでは2.50点未満・1.65点以上が第4ランク)

第5ランク (濃い灰色白抜文字) は0.33点以下で「総合評価区分のくすぶりカップル」で、ジェンダーフリーにはほど遠いとみられる項目とみる。(分野レベルでは1.65点以下が第5ランク)

色付けした結果でみてみよう

〈妻と夫の力のバランスは?〉

A分野「夫上位の夫婦関係か?」の問いに対して、ほとんどの項目で「いいえ」と答え、全項目が3年間高得点で第1ランクに入っており、A分野全体 (5項目計) でも堂々の第1ラン

ク（クロスオーバー・カップル）で、夫がジェンダーフリーをよく理解して妻を尊重しているという結果となっている。

B分野「妻上位の夫婦関係か？」の問いに対して「妻の本音は“亭主達者で留守がいい”」に対して約4割の妻が「はい」と答えて第3ランクとなっているのは、家庭内分業の名残がまだ残っているのであろうか。しかし他の4項目では妻も夫を尊重している結果を示しており「要・規制緩和カップル」のなかでも「クロスオーバー・カップル」に近い第2ランクとなっているが、妻たちは夫ほどにはジェンダーフリーになりきれていないと見て取れる。したがってB分野全体でも第2ランクにとどまっている。

C分野「平等の夫婦関係か？」の問いに対しては「一緒にいるとお互いに楽しいか？」にたいしては7割以上のカップルが「はい」と答えているのは、A・B分野の結果からみて「然り」として理解するが、他の4項目、特に「意見が合わないときは納得いくまで話し合う」「資産の名義は夫婦半々である」「お互いの呼び方が名前や愛称か？」は何れも「くすぶりカップル」に近い第4ランクに位置し、C分野全体でも第3ランクである。

ということは、この調査対象カップルは夫・妻間でやや差はあるもののジェンダーフリーを理解しており、気持ちの面では夫婦が互いに愛し合い尊重しあっているものの、その気持ちを「呼び方」などで態度に現したり、財産名義等ハードな事柄について（有耶無耶にしないでとことん話し合う）夫婦共同の行動実績ができていないと言うことであろうか。

これらは欧米人に比べてシャイな日本人の特性かもしれないが、ジェンダーフリーの時代にはやや物足りなさが残る。

バランス指数 A・B・C3分野の合計で2004年に11.50を記録し5年前の1999年の10.45に比べて大幅に改善している。2005年には10.99とやや下がっているが、5年前に比べて改善傾向にあるのであろうか。内容的にはB分野の妻の意識改善がもっとも大きく専業主婦の減少にとまなう、家庭内分業意識が減ってきた影響であろうか。

〈家事と育児の協力関係は？〉

D分野「夫は家事・育児に不参加か？」の問いに対しては5項目中3項目「夫は家では指図や文句を言うだけで家事を何もしない」子育ては主に妻の役目と考え、夫はほとんど手も口も出さない」「食事の仕度がしてないと、夫は機嫌が悪くなる」で70%以上の人が「いいえ」と答え第2ランクである。夫の生活面でのジェンダーフリーぶりは良好と言えるのだが、「夫は料理らしい料理をほとんど作れない」と「夫は妻の家事や育児を感謝したりほめたりしない」が3ランクである。料理は妻の協力は必要だし、感謝やほめることは日本人は誉めることがにがてで慣れていないことによるとも思われるが、もっと改善できないものだろうか。また、D分野全体では第3ランクと1999年の第2ランクから低下傾向にある。

E分野「妻が夫の家事・育児参加を規制していないか？」の問いに対して5項目中2項目「妻は夫の育児に対してけちばかりつける」「妻は夫の家事に文句を言うだけでほめたり感謝したりしない」が、第1ランク（クロスオーバー・カップル）であり、「妻は家事すべてを取り

仕切り夫に口を挟ませない」と「妻は台所は女の城と思っている」の2項目が第1ランクに極めて近い第2ランクである。妻が夫の家事・育児参加を快く受け入れているという結果である。唯一2005年に3ランクとなっている「妻は夫を手のかかる子供のように扱う」も第2ランクとのボーダーラインであり、E分野全体では1999年・2004年第1ランクから2005年はランク落ちしてはいるが第1ランクに近い第2ランクと妻のジェンダーフリーはまずまずといったところである。

F分野「家事・育児に夫婦協力しているか？」では「子育ての方針は両方で話し合って決めているか？」が第2ランクとなっているもの、「日用品の買い物は夫も妻も同じようにしている」「夫も妻も子供の友達や担任の教師の名を知っている」は第4ランク、「夫の料理で客をもてなすことができる」は第5ランク（D分野の③「夫は料理らしい料理はほとんど作れない」呼応するものでこれを改善するためには妻の協力が必要）と夫の協力能力・実績はかなり低いようである。したがってF分野全体では第4ランク（2005年）ないし極めて第4ランクに近い第3ランク（1999年、2004年）と低レベルであるし、ここでも低下傾向である。

協力指数 個別の項目では夫と妻の協力姿勢はいくつか前向きの面がみられるものの、「協力関係の側面」全体ではまだまだ低レベル（1999年の10.38、2004年10.12は第3ランクへと悪化している）で、停滞しているように感じられる。

(5)2005年夫婦編総合評価ランク別・人員・分野別・項目別平均点の分析と考察

まず、前記表4夫婦編分野別・項目別平均点の分析と同様の区分方法により2005年調査対象122名について5グループに区分した。その結果ジェンダーフリーに近い第1グループ33名、第2グループ33名、第3グループ37名、第4グループ15名、第5グループ4名となった。第3グループが最も多いものの、幸か不幸かジェンダーフリーに近い方の第1・2グループに偏った分布となっており、第4グループ第5グループはきわめて少人数しかいなかった。

分野別・項目別に5グループを色付けした結果をグループ順に追って見ると、次のとおりである。

第1グループ 総合評価指数、分野別でもすべての項目が第1ランクであり、122名中33名（27.0%）がこれに属する。項目別にみてもA、B、D、Eの4分野がすべての項目で第1ランク、その他のC分野は1項目が第1ランク、3項目が第2ランクで、あと1項目「妻と夫は互いに名前や愛称で呼び合っている」が第3ランクであるが、これはジェンダーフリー化にはそれほど重要な項目ではない。F分野は第1ランクと第2ランクが2項目ずつで、あと1項目「夫の料理で客をもてなすことができる」が第4ランクであったが、D分野で「夫は料理らしい料理をほとんどできない」が第1ランクであることを考えればやれば出来るレベルにあると考えられる。

第2グループ 総合評価指数が第2ランクで、分野別ではA分野が全項目第1ランク、E分野は3項目が第1ランク、2項目が第2ランク、B分野は2項目が第1ランク3項目が第1ランクと、分野レベルではA、E、B分野が第1ランクであり、D分野の第2ランクまで含めて、

表4 夫婦編分野別項目別平均点

		1999	2004	2005
妻と夫の力のバランスは？	A 夫上位の関係か	いいえ	いいえ	いいえ
	夫は「釣った魚（妻のこと）に餌はやらない」主義である。	0.84	0.93	0.84
	妻は夫に対して敬語を使う（夫が妻に敬語を使うことはない）	0.86	0.95	0.94
	妻が反対意見を言うと「女のくせに口ごたえするな」と言う	0.95	0.96	0.93
	夫は気に入らないことがあると妻を殴る。	0.94	0.97	0.97
	いつも妻は聞き手、夫が話し手である。	0.94	0.90	0.94
	小 計	4.53	4.70	4.63
	B 妻上位の夫婦関係か？	いいえ	いいえ	いいえ
	妻の本音は「亭主達者で留守がいい」だ。	0.57	0.65	0.58
	夫が弱音を吐くと妻は「男のくせにだらしがない」と言う。	0.89	0.93	0.90
	家計はすべて妻が握り、夫の自由にはさせない。	0.77	0.79	0.81
	妻は、家の中のことはすべて自分の思い通りにしている。	0.71	0.84	0.74
	いつも夫は聞き手、妻が話し手である。	0.51	0.82	0.80
	小 計	3.44	4.02	3.84
	C 平等の夫婦関係か？	はい	はい	はい
	一緒にいるとお互いに楽しい。	0.73	0.70	0.72
	夫婦のどちらかが欠けてもそれぞれ独りで何とか生きていける	0.53	0.59	0.55
意見が合わないときは両方が納得するまで話し合う。	0.61	0.57	0.46	
資産（貯金や家や保険など）の名義は夫婦で半々である。	0.35	0.48	0.42	
妻と夫は、お互いに名前や愛称で呼び合っている。	0.27	0.43	0.38	
小 計	2.48	2.77	2.52	
バランス指数 (A+B+C)		10.45	11.50	10.99
家事と育児の協力関係は？	D 夫が家事・育児に不参加か？	いいえ	いいえ	いいえ
	夫は、家では指図や文句を言うだけで家事を何もしない。	0.77	0.68	0.75
	子育てはおもに妻の役目だと考え、夫はほとんど手も口も出さない	0.79	0.77	0.75
	夫は、料理らしい料理をほとんどつくれぬ。	0.60	0.67	0.53
	食事の用意がしていないと、夫はひどく機嫌が悪くなる。	0.73	0.74	0.72
	夫は、妻の家事や育児を感謝したりほめたりしない。	0.62	0.51	0.56
	小 計	3.51	3.37	3.31
	E 妻が夫の家事・育児参加を規制しているか？	いいえ	いいえ	いいえ
	妻は、家事すべてをとりしきり、夫に口をはさませない。	0.87	0.89	0.78
	妻は、夫の育児についてけちばかりつける。	0.94	0.93	0.93
	妻は、夫を「手のかかる子ども」のように扱う。	0.79	0.68	0.66
	妻は、台所は女の城だと思っている。	0.84	0.85	0.82
	妻は、夫の家事に文句を言うだけでほめたり感謝したりしない、	0.83	0.84	0.83
	小 計	4.27	4.19	4.02
	F 家事・育児に夫婦協力しているか？	はい	はい	はい
	日用品の買い物は夫も妻も同じようにしている。	0.52	0.53	0.37
	妻は夫に家事を任せて家をあけることができる。	0.68	0.59	0.58
夫の料理で客をもてなすことができる。	0.25	0.33	0.17	
夫も妻も子どもの友達や担任の教師の名を知っている。	0.39	0.43	0.42	
子育ての方針は両方で話合って決める。	0.76	0.68	0.70	
小 計	2.60	2.56	2.24	
協力指数 (D+E+F)		10.38	10.12	9.57
合 計		20.83	21.63	20.56

(注)1 1分野後地に得点となる回答が異なるため、A・B・D・E分野は「いいえ」が、C・F分野は「はい」が得点となる

(注)2 ランク別色分け 第1ランク 第2ランク 第3ランク 第4ランク 第5ランク

4分野までは第1グループと遜色ないが、C分野の第3ランクとF分野の第4ランクが見劣りする。これに属する人数は33人(27%)であった。

項目別では、C分野は1項目「一緒にいるとお互いに楽しい」が第1ランクとなっているが「夫婦どちらがかけていてもひとりでも何とか生きていける」「意見が合わないときは両方が納得するまで話し合う」「資産(預金や家や保険など)の名義は夫婦半々である」の3項目が第3ランクであることと、「夫と妻はお互いに名前や愛称で呼び合っている」も第4ランクとなっていることで第1グループと差がついてしまった模様である。資産の問題等ハードな事柄で夫婦間で意見交換をすることなどが十分でないようである。

F分野は「子育ての方針は両方で話し合っている」の1項目が第2ランクでまずまずであるが、「妻は夫に家事を任せて家を空けることができる」が第3ランク、「夫も妻も子供の友達や担任の教師の名前を知っている」が第4ランク、「日常品の買物は夫も妻も同じようにしている」と「夫の料理で客をもてなすことができる」の2項目が最低の第5ランクである。

以上を総括すると、第2グループは、「要・規制緩和カップル」の中の最上位グループであるが、夫や妻の意識面は十分ジェンダーフリー化していても、夫婦平等のコミュニケーションが十分でないこと(C分野)、家事育児の協力実績(F分野)が十分でないことが、クロスオーバー・カップルグループになり得なかった原因であると考えられる。夫婦間のコミュニケーションをよくすることと妻の協力の下で夫の家事に関するスキルを上げることで、クロスオーバー・カップルへの1ランクアップが期待できる。

第3グループ 総合評価指数が第3ランク、分野別ではA分野の第1ランクと、E分野の第2ランクは立派であるがB、D分野が第3ランク、C分野とF分野が第4ランクである。夫婦間のハードな問題に対するコミュニケーションと家事・育児に対する夫のスキルアップと夫婦の協力実績をあげなければジェンダーフリーにはかなり遠いグループである。このグループの人員は37名(30%)と最も多い。

項目別では、A分野は各項目とも上位グループと遜色ない。B分野は「夫が弱音を吐くと妻は男のくせにだらしがない」の1項目が第1ランクのほかは、2項目が第2ランク、1項目が第3ランクでまずまずであるが、1項目「妻の本音は“亭主達者で留守がいい”」が第4ランクである点が問題である。C分野は第3ランクが1項目、第4ランクと第5ランクが2項目ずつ。D分野は「夫が家では指図や文句を言うだけで家事を何もしない」が第2ランクだが、あとは4ランクと5ランクが2項目ずつ、E分野は「妻は夫の育児についてけちばかりつける」「妻は、台所は女の城だと思っている」の2項目が第1ランクの他は、第2ランクが2項目、第3ランクが1項目である。F分野は1項目「子育ての方針は両方で話し合って決める」は第3ランクだが、あとは2項目ずつが最低に近い第4ランクと最低の第5ランクである。

結局、第3グループは「夫と妻の力のバランス関係」の側面ではカップルのジェンダーフリーに向ける意欲を示すA分野とB分野の項目はジェンダーフリーに近いが、夫婦間の資産問題などハードな事柄、又コミュニケーションの実績を示すC分野はジェンダーフリーには遠い結果

となり、「家事と育児の協力関係」の側面ではカップルの協力意識をあらわす分野のうち、妻側のE分野は第2ランクとジェンダーフリーにかなり近いが、夫側のD分野は第3ランクとジェンダーフリーにはまだまだ、夫婦の協力の実績を示すF分野は全くジェンダーフリーからは遠い存在である。

4グループと5グループは、人数は極めて少ない（4グループは15名、5グループは4名）し、総合評価指数は4グループが12.67第4ランク、5グループが9.75と第5ランクとジェンダーフリーの埒外の存在である。

いずれにしても2005年で見ると122人中第1グループ（クロスオーバー・カップル）は既にジェンダーフリーの領域にあり、要・規制緩和カップルのうち第2グループ33名と第3グループ37名は、ジェンダーフリーについては十分理解できているので、今後カップル間でハードな問題も含めコミュニケーションを良くするとともに、夫の家事・育児参加のために妻が協力すること等によって近い将来必ずジェンダーフリーの世界が見えてくると期待できると言うのが本報告の考察である。

5. 自由記述による学生のジェンダー評価とジェンダーバイアスおよび発展・展望

調査に協力していただいた学生や両親による総合評価としての自由記述による評価や意見などを概括してみると「①ジェンダーフリー化への意識はかなり進展しているが、個々の点で今後に期す。②ジェンダーフリーな家庭が多くなってきた。意識面ではさらに進展してきた。③生き方として、ジェンダーフリーからロハスへ移行しつつあり、実際はかなり進展している。心のロハスということで、ジェンダーを超えた発想も見られる。」以下にそのうちの一部を掲載する。

（その1） 「男は仕事」「女は家庭」という考え方は、現在社会の女性からはかなり支持を失っているが、家事は女性がするという現実はかわらないようである。考え方では、「男は仕事、女は家庭」が支持されなくなっても、現実では、「女は家庭」が続いているのである。まだ、日本では結婚・出産退職の主婦が他の国より著しく多いことから、「男は仕事、女は家庭」の考えが強いことがわかる。しかしこれでは、妻や母は社会性を奪われ、夫や父は家庭での居場所を奪われるということになる。母親はだれでも育児に向いているという事はないし、もしかしてパートナーである父親（の方）が育児に向いているかもしれない。また、2人の育児性に大差が無ければ、一緒に育てながら2人とも働くということもあると思う。それなのに実際には育児は母親の仕事であるとみなされている。育児だけではなく、介護ケアも当然のように女の役割として考えられている。それらの結果、育児ノイローゼや幼児虐待などにつながっていくこともある。外での仕事も、育児も介護も男性、女性に関係なく出来る仕事である。

突然、夫と妻の仕事を逆転し（ようとし）ても無理であるが、（夫にも）子育てにはどんどん積極的に取り組んでほしいものである。2人の子どもだから、男もお金をあげるだけでなく、愛情をそそいであげてほしい。女も男も、経済的にも、精神的にも自立する力を持つ

表5 2005年夫婦編総合評価ランク別・人員・分野別・項目別平均点

グループ名		1グループ	2グループ	3グループ	4グループ	5グループ	
カップルの総合評価(東京都女性財団による)		クロスオーバー カップル	要・規制緩和カップル			くすぶり カップル	合計
総合評価指数階層別		25~30点	21~24点	16~20点	11~15点	小計	10点以下
所属人員		33名	33名	37名	15名	85名	4名 122名
妻と夫の力のバランスは？	A 夫上位の夫婦関係か？(いいえ)						
	夫は「釣った魚(妻のこと)に餌はやらない」主義である。	0.97	0.97	0.81	0.47	0.81	0.25 0.84
	妻は夫に対して敬語を使う(夫が妻に対して敬語を使うことは無い)	0.97	0.97	0.89	0.87	0.92	1.00 0.94
	妻が反対意見を言うと「女のくせに口ごたえするな」と言う	1.00	0.94	0.95	0.67	0.89	1.00 0.93
	夫は気に入らないことがあると妻を殴る。	1.00	0.97	0.92	0.93	0.94	1.00 0.97
	いつも妻は聞き手、夫が話し手である。	0.94	0.94	0.97	0.80	0.93	1.00 0.94
	小計	4.88	4.94	4.54	3.73	4.55	4.25 4.63
	B 妻上位の夫婦関係か？(いいえ)						
	妻の本音は「亭主達者で留守がいい」だ。	0.94	0.67	0.43	0.07	0.46	0.00 0.58
	夫が弱音を吐くと妻は「男のくせにだらし無い」と言う。	1.00	0.94	0.86	0.60	0.85	1.00 0.90
家計はすべて妻が握り、夫の自由にはさせない。	1.00	0.85	0.65	0.67	0.73	0.75 0.81	
妻は、家の中のことはすべて自分の思い通りにしている。	0.88	0.76	0.70	0.53	0.69	0.25 0.74	
いつも夫は聞き手、妻が話し手である。	0.94	0.82	0.70	0.73	0.75	0.50 0.80	
小計	4.76	4.18	3.35	2.60	3.54	2.50 3.84	
家事と育児の協力関係は？	C 平等の夫婦関係か？(はい)						
	一緒にいるとお互いに楽しい。	1.00	0.85	0.62	0.27	0.65	0.00 0.72
	夫婦のどちらかが欠けてもそれぞれ独りで何とか生きていける	0.70	0.58	0.43	0.60	0.52	0.00 0.55
	意見が合わないときは両方が納得するまで話し合う。	0.79	0.48	0.35	0.07	0.35	0.00 0.46
	資産(貯金や家や保険など)の名義は夫婦で半々である。	0.73	0.39	0.22	0.33	0.31	0.00 0.42
	妻と夫は、お互いに名前や愛称で呼び合っている。	0.58	0.33	0.30	0.27	0.31	0.25 0.38
小計	3.79	2.64	1.95	1.53	2.14	0.25 2.52	
家事と育児の協力関係は？	D 夫は家事・育児に不参加か？(いいえ)						
	夫は、家では指図や文句を言うだけで家事を何もしない。	1.00	0.79	0.68	0.40	0.67	0.00 0.75
	子育てはおもに妻の役目だと考え、夫はほとんど手も口も出さない	1.00	0.85	0.65	0.40	0.68	0.00 0.75
	夫は、料理らしい料理をほとんどつけれない。	0.88	0.55	0.38	0.13	0.40	0.25 0.53
	食事の用意がしていないと、夫はひどく機嫌が悪くなる。	0.85	0.94	0.57	0.33	0.67	0.50 0.72
	夫は、妻の家事や育児を感謝したりほめたりしない。	0.88	0.67	0.32	0.27	0.45	0.56
	小計	4.61	3.94	2.59	1.53	2.93	0.75 3.31
	E 妻が夫の家事・育児参加を規制していないか？(いいえ)						
	妻は、家事すべてをとりしきり、夫に口をはさませない。	0.97	0.88	0.70	0.40	0.72	0.25 0.78
	妻は、夫の育児についてけちばかりつける。	1.00	0.94	0.89	0.87	0.91	0.75 0.93
妻は、夫を「手のかかる子ども」のように扱う。	0.88	0.76	0.54	0.33	0.59	0.25 0.66	
妻は、台所は女の城だと思っている。	0.94	0.79	0.84	0.67	0.79	0.25 0.82	
妻は、夫の家事に文句を言うだけでほめたり、感謝したりしない	1.00	0.91	0.81	0.40	0.78	0.25 0.83	
小計	4.79	4.39	3.78	2.67	3.82	1.75 4.02	
F 家事・育児に夫婦協力しているか？(はい)							
日用品の買い物は夫も妻も同じようにしている。	0.70	0.33	0.30	0.00	0.26	0.00 0.37	
妻は夫に家事を任せて家をあげることができる。	0.91	0.52	0.46	0.40	0.47	0.25 0.58	
夫の料理で客をもてなすことができる。	0.42	0.03	0.14	0.07	0.08	0.00 0.17	
夫も妻も子どもの友達や担任の教師の名を知っている。	0.70	0.48	0.30	0.07	0.33	0.00 0.42	
子育ての方針は両方で話合って決める。	1.00	0.76	0.62	0.27	0.61	0.00 0.70	
小計	3.73	2.12	1.81	0.80	1.75	0.25 2.24	
総合評価指数		26.55	22.21	18.03	12.87	18.74	9.75 20.56

(注)1 分野ごとに質問の仕方によって「はい」「いいえ」の意味が異なるので、A・B・D・E分野は「いいえ」が、C・F分野は「はい」がジェンダーフリー化しているとして得点をカウントする。

(注)2 平均点は階層別項目別の得点合計を対象人員で除したものの。

(注)3 **第1ランク 第2ランク 第3ランク 第4ランク 第5ランク**

た上で、夫婦の話し合いをし、仕事や家庭の仕事を協力していく夫婦関係や家族関係が成り立ってほしいものである。(O・H)

(その2) 夫婦を見ていれば、お互い助け合い、支えあって成長していくのだと思う。ずっと一緒に共に生活していこうと決めた仲でも、たくさんの困難があり、二人で越えていこうというようになるまでには大変な努力が必要である。(私たちは) アンケートでは、クロスオーバー・カップル(27点)となった。私は何事も平等が好きだ。しかし、夫を立てたいと思ったら、3歩下がって立ててあげるであろう。夫がしてほしいことや自分がしたいと思うことは無理には反対しないと思う。夫婦だから言えることや、夫婦だからいえないことがあると思う。そういうことをうまくやっていきたいと考えている。何十年も一緒にいられる夫婦、ってすごいと思う。そのような男性が世界中で巡り合えるのか? すごいことだと思う。夫婦でどちらかの権力が強い弱いがあってはならないと思う。弱い立場を強い立場がいじめるのは絶対あってはならないと思う。あくまで、夫婦平等が望ましい。尊重しあって、愛し合っていける夫婦がのぞましい。(K・N)

(その3) 私は、彼(友人)に(無意識のうちに)、(彼が)女々しいことをいっていると「男のくせにしっかりせよ」というようなことをいっていることに気がついた。私は、実家の昔ながらの「男はこう、女はこう」ということに、うんざりしていたはずなのに、気が付くと自分も、「男は強くあるべきだ」など自然に思っていた。少なからずショックであった。今日、頭でわかっていても、男と女で差のあることは多い。みんなの考えをかえるのは大変である。でも、1人ひとりが一個人として扱われる時代にならなければならないという意識を持つべきではないか。不可能かもしれないが、結婚して、共白髪まで手をつないでいっしょに行動出来るような夫婦になりたいと思っている。そのために、互いに名前呼び合ったり共通の趣味を持ったり、子どものことを共に理解したり、共に興味と関心を持ち合ったり、働きかけることが大切だと思う。衝突したり喧嘩したりしたときは、納得のいくまでとことん話し合いをしたいと思う。夫婦なので互いのことをよく理解して、譲るところは譲り、主張するところは主張して、話し合える夫婦が理想であると思う。両親は、そのときその時嵌っているものがあり、休日になると2人で(いそいそと)出かけていく。仲がよく、私の中で、ああいう夫婦関係になれたらいいなあと、いつも思っている。私が小さいときからずっとそうで、友達にも、自慢の親夫婦である。2人が(それぞれが)、1人の個人としてお互いを尊重しあっているのではないかと感じる。(S・K)

(その4) ジェンダーは「女らしさ」や「男らしさ」など「社会的文化的に創られた性」を表わす言葉であったが、国連を中心に1980年代以降「ジェンダーフリー」の動きが活発になっていった。おりしも、2000年以降は男女共同社会へ突入し、「男女共同参画社会2000年プラン」は、それらを確実なものとしていった。ちなみに、ジェンダーという概念は、造語と思っている人が多いが、実際にはアメリカから入ってきたわけで、純粋に英語である。「ジェンダーフリー」は、「ジェンダーレス」ではない。ことに、マスコミなどでは、誤って、吹聴している

向きも多いようであるが、勘違いの原因である。～社会的、身体的、束縛から自由になること～などどれも間違いではなく、むしろ、正否を決めようとするのは、十人十色の考えがある限り、レベルの低い考えであろう。ただ、「性差意識」を解消してはいけない。解消すべきは「性差別意識」である。

この、微妙なニュアンスを捉えるのに、大事な問題となろう。～この視点は、教育の問題にシフトしていくから。教師は、いろいろなジェンダーフリーがあることに気づくべきである。「主夫」の出現、「主婦」の減少。より暮らしやすい社会と振り回されない、みずからの見極めと発見による生き方～。

今日では、「ジェンダーフリー」もさることながら、「ロハス」の時代へという考え方が台頭してきて、その生き方が、いたるところで火を噴いているような観がある。それは、少なからず、夫婦のあり方や家族の考え方を根底から新しくし、生命の根源を問い直す考えに変わってきているように思う。そのとき、男女の平等や平和、開発、発展がおとずれるのであろうか。

(その5) ジェンダーフリーを通過しつつ、家族の、家庭生活の充実が求められようとしている。家政学の目的である、①家庭生活の向上、②家政性の向上、③自己実現、社会実現、④人間開発、⑤真・善・美・愛の追求、⑥人類の福祉増進、⑦地球天国の建設(人類の理想)など。21世紀は前世紀よりもいい時代になってくれるだろうと思って期待に胸を膨らませている(^_^)。楽しく人が生活すること～。(I. H)

(その6) ジェンダーフリーが特に取り沙汰されてきたのは、昭和60年代～だと考える。昭和62年(1987)には、男女雇用機会均等法が成立・施行され、1990年代、平成時代になると、さらにジェンダーフリーの傾向が強くなり、1999年には男女共同参画社会基本法が成立施行された。この1999年から、看護婦を看護師と呼んだり、スチュワーデスをキャビンアテンダント、保母を保育士と呼ぶなど、名称についてもジェンダーフリーになり、かつ、男の仕事、女の仕事の区別をなくしていった。～学校現場についても、男女共学のところが増えたり、男女混合名簿や呼称についても共通して「～さん」と付けたり、「男の子だから」とか、「女の子だから」ということを禁止されるなど、ジェンダーフリーは進んでいった。～そして、ここ数年環境問題の進行で、エコが叫ばれる中、「ジェンダーフリー」のキーワードに「ロハス」が登場したのである。～それは「もったいない」心で長持ちする心であり、優しさや、長持ち、長生きの発想である。～私は、それは、ロハスには、心のロハスとしてジェンダーフリーの考えがあるからではないか。ジェンダーもロハスの中に含まれる。男性も女性も相互によいところを生かして～。

私も、男だからということではなく、家事を行ったり、身近なところからジェンダーフリーで、そして、家事を行う中でロハスの発想に立ち、マクロビオテックの食品や食事をういたり、生ごみを土に戻したり、洗剤は自然から出来たものをつかうなど、ロハスを実践して行こうと思います。(T. U) 早大政治経済学部4年、男性)

(その7) 仕事・結婚・子育てと女性には選択肢があるが…、社会の大きな理解が必要と

される。女性も男性も関係なく、ひとりひとりが充実した人生が送れるようになるには、ひとりひとりの意識の変化そして社会の意識の変化がとても重要であると思う。(K, K)

6. まとめ

はじめに分析から得た結果について述べる。総合評価において、2004年、2005年では約3割弱が「クロスオーバー・カップル」、7割を占める「要・規制緩和カップル」を細分化してみるとさらに約3割弱が「クロスオーバー・カップル」に極めて近い層であり、両者合わせて約半分はジェンダーフリー化しつつあるようである。しかし残りの約半分についてはそのまた6割（全体の3割相当）のカップルは比較的对等な仲のよい関係であるのに、家事や育児への夫の参加がほどほどであったり、妻がそれらの点で寛大ではなく夫に任せる気持ちがほどほどであったり、いずれも一層の努力が必要であり、徐々にでもジェンダーフリー化に進んでほしいグループである。残りの2割（要・規制緩和カップルの下位とくすぶりカップル）は現段階ではなかなかジェンダーフリー化への道は遠いといわざるを得ない。

今日、性別役割分業は意識面ではかなり解消してきているものの、全体的に見ると現実の社会はまだまだといわざるを得ない点がある。力関係のバランス、経済、会話、敬語などについて、家庭生活の文化の面でも見直す必要があるようである。夫や妻の呼び方やコミュニケーションの仕方や技術の不足、ひいては家庭の文化そのものの日本らしさが、ある面でさまたげをしている面もあるのではなかろうか。21世紀は20世紀のよき点を学び新しいパラダイムへと是正していくことが必要である。しかし、全体的には意識面ではジェンダーフリー化へ流れができつつあるので、地道に子供には学校教育の家庭科教育、大人には家庭や社会で生涯教育などをとおして、男子も家事ができるようにスキルを教育していくなど、実践面で努力していけば道はおのずと開かれるであろうと思われる。

謝辞

調査困難な時期に多数の学生およびその父母から調査に協力頂きましたこと、および「(財)東京女性財団のジェンダーチェックワークシート〔その3〕③夫婦・親子編のうち「夫婦編」を活用させていただきましたことに対して深く感謝申し上げます。

註および参考文献

- 1) 百瀬靖子：女子大生とその家族のジェンダーバイアス—2000・2001・2002・2003・2004—第1報 年中行事編，東京家政大学研究紀要 第46集（1）2006，p.91-100.
- 2) 百瀬靖子：女子大生とその家族のジェンダーバイアス—第2報 家族文化としての生活場面編— 東京家政大学博物館紀要 第12集 2007，p.13-26.
- 3) 百瀬靖子：『家政学原論・生活経営学 ジェンダーフリーの時代からロハスの時代へ』創成社，2006，p.80-280.
- 4) 湯沢雅彦：『100年前の家庭生活』クレス出版，2006，p.7-28.

- 5) 湯沢雍彦：『小子化をのりこえたデンマーク』朝日選書690 朝日新聞社, 2003, p.3-246.
- 6) 湯沢雍彦：『家庭内ジェンダーの原点 明治の結婚明治の離婚』角川選書388 角川書店, 2005, p.4-254.
- 7) 新井 満・新井紀子：『ピーターラビット紀行』河出書房新社, 2002, p.1-126.
- 8) 角川映画：『ミス・ポター』2007およびパンフレット.
- 9) エリザベス・バンカ著 吉田新一訳：『素顔のピアトリクス・ポター』絵本の家, 2001, p.1-73.
- 10) 角川映画株式会社映画サイト『ミス・ポター』2007.
- 11) 男女共同参画会議 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する専門調査会：
「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向報告～多様性を尊重し仕事と生活が好循環
を生む社会に向けて～ 2007.7
- 12) 臼井和恵・奥田郁子：『生活文化の世界—人生の四季によせて』, 1997, p.1-226
- 13) 日本経済新聞：『男こそ茶道—シニア世代が発見』2007.10.25.